

研究支援事業  
学術集会の開催

## 学術集会

第 78 回日本血液学会学術集会 プログラム概要

会 期：平成 28 (2016) 年 10 月 13 日 (木) ～ 15 日 (土) (3 日間)

会 場：パシフィコ横浜、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル

会 長：三谷 絹子 (獨協医科大学 内科学(血液・腫瘍) 教授)

メインテーマ：Contribution of Everyone in Hematology

参加者数：6,325 名 (うち、海外 171 名)

プログラム

会長講演 1 題

特別講演 3 題 (Special Lecture、ASH Special Lecture、EHA Special Lecture)

JSH 学会賞受賞講演 1 題

教育講演 64 演題 (うち 52 演題を再演)

シンポジウム 12 テーマ (57 題)

(Presidential Symposium、JSH-ASH Joint Symposium、JSH-EHA Joint Symposium を含む)

パネルディスカッション 1 テーマ (7 題) (Asian Joint Panel Discussion)

プレナリー 6 題

一般口演 525 題 (内 2 題、演題取り下げ)

一般ポスター 657 題 (内 27 題、演題取り下げ)

誌上发表 38 題

SETP (Scientific Exchange Training Program) 4 テーマ (8 題)

コーポレートセミナー ランチョンセミナー：44 セミナー (52 題)

モーニングセミナー：13 セミナー (15 題)

公開シンポジウム

## 国 際

### ・第 8 回国際シンポジウム (The 8th JSH International Symposium in Miyazaki)

会 長 谷 憲三朗

日 時 2017 年 5 月 19 日 (金) - 20 日 (土)

会 場 宮崎シーガイア コンベンションセンター

テーマ Cell and Gene Therapy for Hematological Disorders -Current Status, Challenges, and Future Perspectives-

「造血器疾患に対する細胞・遺伝子療法の現状、挑戦と将来展望」

参加者数：246 名 (うち海外 62 名)

### ・第 78 回日本血液学会学術集会における ASH/EHA Special Lecture / ASH-JSH Joint Symposium / EHA-JSH Joint Symposium / Asian Joint Session

#### ASH Special Lecture

Charles Abrams “Novel therapies for treating ITP”

#### JSH-ASH Joint Symposium

< Molecular heterogeneity and target therapies of malignant lymphoma in new WHO classification era >

Elaine S. Jaffe “Pathology side: A focused update of the revised WHO classification of lymphoid neoplasms”

Jonathan W. Friedberg “Clinical side: New target therapies for malignant lymphoma based on molecular heterogeneity”

Kennoh Karube “Genetic heterogeneity of DLBCL”

Kenji Ishitsuka “Progress in the management of ATL”

## EHA Special Lecture

Tony Green “The myeloproliferative neoplasms - JAK/STAT signalling and stem cell subversion”

## JSH-EHA Joint Symposium < AML with recurrent genetic abnormality in WHO2016 >

Miguel A. Sanz “Current treatment of acute promyelocytic leukemia”

Peter Paschka “KIT inhibition in core-binding factor”

Akira Shimada “Pediatric AML with genetic alterations”

Yuichi Ishikawa “Cooperative mutations in AML with recurrent genetic abnormality”

## Asian Joint Panel Discussion < Recent progresses in the treatment of immune thrombocytopenia and coagulopathy in Asia >

Taiwan: Yeu-Chin Chen “Clinical diagnosis and genetics of von Willebrand disease”

Thailand: Ponlapat Rojnuckarin “Challenges in diagnosis and treatment of immune thrombocytopenia”

China: Hou Ming “T cells in the pathogenesis of immune thrombocytopenia”

Korea: Soo-Mee Bang “Current status of ITP in Korea”

India: Manoranjan Mahapatra “Immune thrombocytopenic purpura: Challenges in management in Indian context”

Singapore: Lee Lai Heng “Management of direct oral anticoagulant - Associated bleeding”

Japan: Keiji Nogami “Quick diagnosis for coagulation disorders with prolonged APTT using comprehensive coagulation assays”

## • **22nd EHA Congress in Madrid** における **EHA-JSH Joint Symposium**

<Next Generation Sequencing of Hematological Malignancies>

Seishi Ogawa “NGS discovering cancer immune evasion through disruption of PD-L1 3'-UTR sequence”

Peter Campbell “Interrogating the architecture of cancer genomes”

## • **若手研究者への 22nd EHA Congress Travel Award 支援**

演題が採択された以下の 5 名にトラベルアワードとして 20 万円を本学会より補助。

藤澤 学 (筑波大学血液内科)

Activation of RHOA-VAV1 signaling axis in angioimmunoblastic T-cell lymphoma

石垣知寛 (東京大学医科学研究所幹細胞治療分野)

Successful identification of specific amino acid-dependence in adult T-cell leukemia / lymphoma

森田 剣 (京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻血液・生体防御学研究室)

Cluster regulation of runx family by “gene switch” triggers a profound tumor regression of diverse origins

関 正史 (東京大学医学部附属病院小児科)

Identifications of novel recurrent pu.1 fusions with highly aggressive phenotype in pediatric t cell acute lymphoblastic leukemia

竹田淳恵 (京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学講座)

Genetic landscape of acute erythroid leukemia

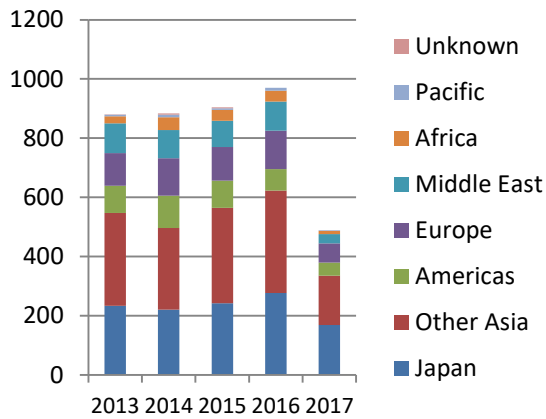
## • **EHA-JSH Collaborative Exchange Program 2017**

日本からヨーロッパへの派遣者には 100 万円を本学会より補助。

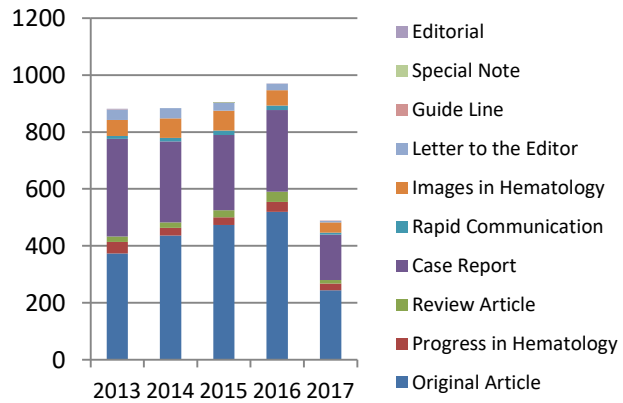
JSH・EHA とともに該当者なし

「IJH」(International Journal of Hematology) 誌

《地域別投稿数》

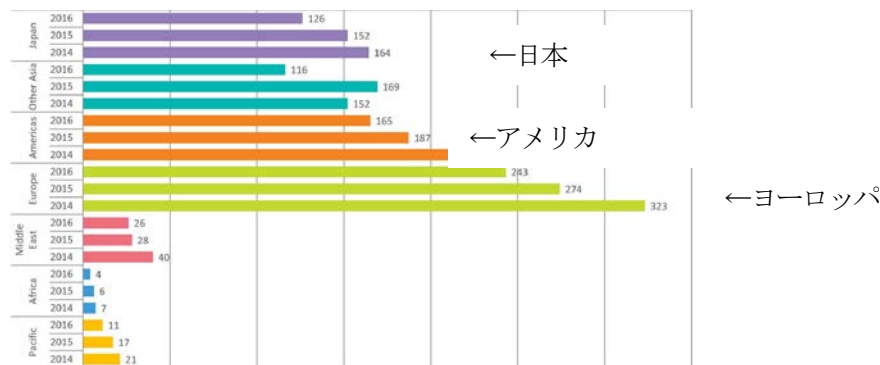


《論文種別投稿数》



投稿数：2013年881件、2014年884件、2015年904件、2016年970件、2017年489件 (8/31現在)

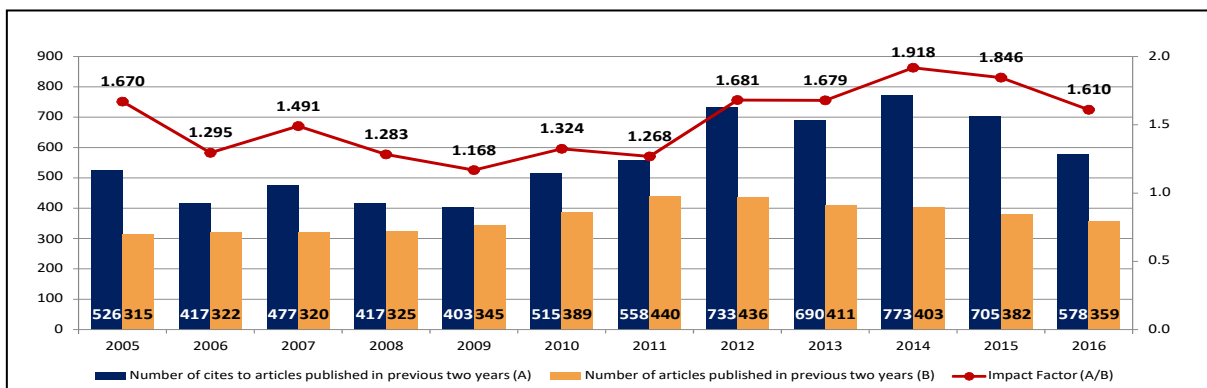
《2014-2016年に出版されたIJHの地域別引用状況(2016)》



Source: Web of Science (as of June 26, 2017)

《Impact Factor》

**Cites in 2016 to articles published in: 2014 = 333 + 2015 = 245**  
**Number of articles published in: 2014 = 186 + 2015 = 173    578 / 359 = 1.610**



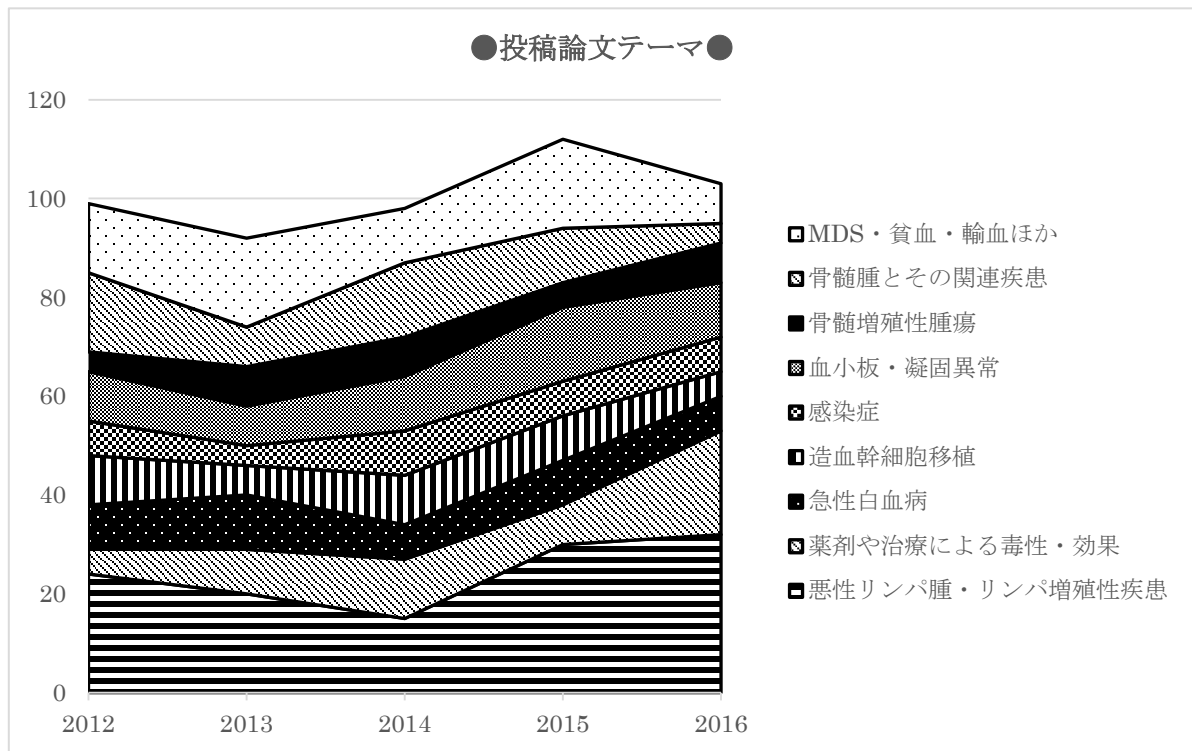
# 「臨床血液」誌 《2017.9.11 現在》

## 2017年発刊状況

巻/号	頁数	シボ	総説	臨床研究	症例	短報	計	
57/1	86	0	1	0	8	2	11	
57/2	140	0	10	1	3	0	14	
57/3	168	0	12	2	3	0	17	
57/4	128	6	0	0	9	1	16	
57/5	168	8	0	1	6	3	18	
57/6	146	6	0	0	6	1	13	
57/7	148	4	5	2	4	2	17	
57/8	142	8	0	1	7	0	16	
57/9	705	第78回学術集会 プログラム・抄録号						
57/10	474	第78回学術集会 教育講演号 (57本)						
57/11	164	0	6	1	5	0	12	
57/12	170	0	5	2	5	0	12	
計		32	39	10	56	9	146	

## 2018年発刊状況

巻/号	頁数	シボ	総説	臨床研究	症例	短報	計	
58/1	94	0	0	0	7	1	8	
58/2	92	0	1	0	9	1	11	
58/3	82	0	0	0	7	1	8	
58/4	155	0	9	1	6	1	17	
58/5	156	0	10	1	4	1	16	
58/6	146	6	0	2	8	0	16	
58/7	176	12	2	1	6	1	22	
58/8	206	14	2	1	5	1	23	
58/9		第79回学術集会 プログラム・抄録号						
58/10		第79回学術集会 教育講演号 (46本)						
58/11		5	0	4	6	0	15	
58/12		0	1	1	9	1	12	
計		37	25	11	67	8	148	



### ●採用日数平均

### ●年度別採用率

巻	採用日数平均	年度	投稿数	採用数	採用率
54巻	98.7日				
55巻	81.8日	2014年	99	68	68.7%
56巻	86.4日	2015年	112	93	83.0%
57巻	80.5日	2016年	104	92	88.5%

### 《連載》

- Picture in Clinical Hematology
- Introduce My Article
- Be ambitious!
- Take Me Out to the Congress Abroad

## 診 療

### 1) 要望書の提出

- ①医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議への要望
  - ・成人 AML に対するフルダラビンリン酸エステル
  - ・血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) に対するリツキシマブ (適応拡大)

### ②厚労省への要望書

- ・ベンダムスチン投与時の帯状疱疹の発症抑制を目的としたアシクロビルの保険償還
- ・カルフィルゾミブ投与時の帯状疱疹の発症予防を目的としたアシクロビルの保険償還
- ・イキサゾミブ投与時の帯状疱疹の発症予防を目的としたアシクロビルの保険償還
- ・NUDT15 遺伝子多型検査試薬 (日本小児血液・がん学会との共同提案)

### 2) 平成 30 年診療報酬改訂提案の提出

#### ① 医療技術評価 (厚生労働省 医療技術評価分科会へ提出)

- ・JAK2 遺伝子変異解析
- ・ADAMTS13 活性測定/ADAMTS13 インヒビター力価測定
- ・EBV-DNA 定量検査 (造血細胞移植学会、リウマチ学会、リンパ網内系学会と共同提案)

#### ② 医学管理料 (内保連から保険局医療課へ提出)

- ・血栓性血小板減少性紫斑病に対する血漿交換療法
- ・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影(PET-CT)
- ・特定血液腫瘍薬剤指導管理料

#### ③ 医薬品 (厚生労働省 医薬食品局扱い)

- ・血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) に対するリツキシマブ (適応拡大)
- ・後天性血友病に対するリツキシマブ (適応拡大)

#### ④共同提案

- ・赤血球表面抗原検査一項目設定の見直し (臨床検査学会)
- ・Major BCR-ABL1 mRNA 定量一保険収載の廃止 (同上)
- ・免疫抑制療法およびがん化学療法時の B 型肝炎感染スクリーニングの管理加算 (リンパ網内系学会)
- ・免疫抑制療法およびがん化学療法時の B 型肝炎既感染者の再燃予防の管理加算 (同上)

### 3) 医師会治験促進センターへの学会推薦

- ・「MEK 阻害剤トラメチニブの造血幹細胞移植後 GVHD に対する適応拡大

### 4) 外部機関への意見提出

#### ① 厚生労働省・医薬・生活衛生局

- ・オプジーボ等の最適使用推進ガイドライン作成への協力

#### ② 日本医師会・保険適用検討委員会へ新医薬品の保険適用について

- ・「ニンラーロカプセル」(再発又は難治性の多発性骨髄腫)
- ・「イストダックス点滴静注用10mg (末梢性T細胞リンパ腫用薬)

### 5) その他

#### ①臨床血液誌掲載のガイドラインに対する意見提出

- ・キャッスルマン病診療の参照ガイド
- ・TTP 診療ガイド 2016

#### ②日本医師会・疑義解釈委員会からの供給停止予定品目についての確認

#### ③ 診療関連情報の広報

- ・オプジーボ®点滴静注 20mg・100mg 適正使用のお願い (メール・HP)
- ・制吐薬としてのオランザピンを使用する上での注意点 (HP)

## 造血器腫瘍ガイドライン

- ・「造血器腫瘍診療ガイドライン」第2版編集/出版準備

## 研究助成

血液学における基礎・臨床の研究（血液疾患患者の利益となる研究）を進展させることを目的として当学会が実施する研究支援事業。

ピアレビュー（血液学分野の複数の研究者による審査）により、血液学の発展に貢献する研究に対し助成を行う。

学術・統計調査事業

### 学術・統計調査

#### 新 TARGET

##### 観察研究 1

「日本国内における初発未治療の慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象とした観察研究」

登録期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

観察期間：平成 30 年 3 月 31 日まで

登録症例数：506 例（予定登録数 500 例）（達成率 101.2%）

主要評価項目：CML 確定診断日から 5 年時点における全生存率(OS)

##### 観察研究 2

「日本国内における 2nd または 3rd line イマチニブ既治療慢性期慢性骨髄性白血病患者を対象とした観察研究」

登録期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

登録症例数：98 例（予定登録数 110 例）（達成率 89.1%）

観察期間：平成 28 年 3 月 31 日まで

主要評価項目：2nd line 以降の薬剤投与開始日から 3 年時点における全生存率(OS)

今後の予定

集計結果を論文化

#### 多発性骨髄腫観察研究

「日本における骨髄腫関連疾患の予後に関する大規模多施設前向き観察研究（JSH-MM-15）」

目的：日本における骨髄腫関連疾患の予後ならびに予後因子について調査すること

デザイン：前向きコホート研究

対象：2016 年 1 月 1 日以降に、骨髄腫関連疾患のうちいずれかを新規に診断した患者。

目標症例数：1,100 例

主な評価項目：

全生存率、無増悪生存率、Time to next treatment、Treatment Free Interval、奏効率

登録期間 3 年（2016 年 5 月 1 日より開始）

観察期間 最終登録例の登録日から 3 年後まで

研究代表者：飯田 真介

進捗状況（2017 年 5 月 31 日時点）

倫理委員会承認施設：62 施設

登録症例数：367 例

#### 骨髄増殖性腫瘍観察研究

「日本における骨髄増殖性腫瘍の予後に関する大規模多施設前向き観察研究」

目的：

わが国における骨髄増殖性腫瘍のうち真性多血症、原発性骨髄線維症、本態性血小板血症の生存率、イベント発生率、およびその発 生に影響を及ぼすリスク因子、治療実態について調査をすること。

デザイン：多施設共同前向きコホート研究

対象：

WHO 分類 2018 年改訂案の診断基準に基づいて新たに MPN（PV、ET、PMF）と診断された患者

目標症例：1,500 例（ET が 900 例、PV が 500 例、PMF が 100 例）

主要評価項目：全生存率

検体保存：ゲノム DNA の保存

登録期間：5年（2016年12月1日より開始）

観察期間：10年

研究代表者：順天堂大学 医学研究科 血液内科 小松 則夫

進捗状況（2017年5月31日時点）：

倫理委員会承認施設：62施設

登録症例数：9例

### 血液疾患登録事業

#### プロトコール改訂：

第4.0版：2017年5月24日（個人状保護法への対応：倫理委員会の承認不要）

第5.0版：2017年5月29日（個人状保護法への対応：倫理委員会の承認必要；迅速審査で可）

#### 登録状況

日本血液学会血液疾患症例登録（日血）、国立病院機構血液疾患登録（国立）、日本小児血液・がん学会疾患登録（小児）に登録された症例の合計を集計

2016年1月1日～2016年12月31日に新たに診断され、2017年5月31日までに登録された症例が対象（第79回総会でパネル展示）

団体名	施設数	登録数
日本血液学会（JSH）	367	32245
日本小児血液・がん学会（JSPHO）	141	2049
国立病院機構（NHO）	27	2335
計	535	36629

### 人材育成事業

#### 専門医認定制度

- 1) 専門医等取得状況 平成29年7月末日現在  
専門医 3,807名  
指導医 1,744名  
研修施設 493施設
- 2) 専門医認定試験  
平成29年度（第27回）血液専門医認定試験  
日時 平成29年7月2日（日）13:00～15:00  
会場 京都烏丸コンベンションホール 会議室（京都市）  
受験者数 211名（欠席2名） 合格者172名・不合格者37名（合格率81.51%）
- 3) 新専門医制度対応WGにおいて、専門研修プログラム整備基準（案）等を検討

### 教育

1. 第10回「研修医（初期・後期）のための血液学セミナー」開催について  
開催形態：日本血液学会の主催として  
日時：平成29年7月8日（土）－7月9日（日）  
\* 7月7日（金）はサテライトイブニングプログラム  
会場：大津プリンスホテル  
対象：研修医（前期、後期を含める）+オブザーバー  
参加人員：118名+11名（申込者数163名+2名）  
講師・座長48名  
講習時間・形態：今回より小児血液の全体ケーススタディー追加。  
全体講義：レクチャー2コマ、ケーススタディー6コマ  
グループスタディー：4コマ  
モーニングレクチャー：2コマ

ランチョンセミナー：2コマ

\* 一部の講師を入れ替え（次回も講師交替を進める方針）

アンケート結果

一般参加 平均点 88.8/100点

オブザーバー参加 86.0/100点

## 2. 第6回若手臨床血液学セミナーへの協力

主催：協和発酵キリン株式会社、ノバルティスファーマ株式会社

日時：平成28年11月12日（土）、13日（日）

会場：梅田スカイビル（大阪市北区大淀中1-1）

参加費：10,000円（交通・宿泊は自費）

参加人数：136名（内科+小児科）

講師：21名、検鏡実習講師：4名

全体講義として17コマ（小児は16コマ）

\* 検鏡実習は希望者のみ。40名

アンケート結果

平均点 86/100点

## 3. 新専門医制度への対応

内科サブスペシャリティーとしてのカリキュラム等の作成（専門医認定委員会との共同作業）

普及啓発事業

### 広 報

#### 1) 日本血液学会ニュース（メール便）定期便および臨時便の発行

① 平成29年度（平成28年9月～平成29年8月）の発行回数

定期便12回

臨時便24回：学術集会、JSH国際シンポジウム、研修医のための血液学セミナー、若手臨床血液学セミナー、MPN観察研究の登録開始、日本学術振興会賞、育志賞の募集案内、など

② 上記①以外のニュース便を配信

・2016年10月：第4回定時社員総会のご案内（インターネットによる議決権行使）

・2017年9月：日本血液学会研究助成事業 実施のご案内

・2017年9月：日本血液学会地方会 会費徴収のお知らせ

③ 海外へのプロモーション

EHA, ASH Congressにて取得した海外研究者／関係者のEメールアドレス宛に、JSH国際シンポジウムや学術集会の案内を配信（2017年9月現在：2,298件）

▶ 配信数：テキスト版・HTML版を合わせ6,657件（2017年9月号での会員宛配信実数）。昨年配信数（6,375件）より282件増加。

#### 2) 日本血液学会ホームページ（HP）

・WEBセミナー：教育講演（第78回日本血液学会学術集会）のWEB版を会員専用ページに掲載

・日本血液学会研究助成事業 申請登録画面を作成

#### 3) 日本血液学会HPサーバーの一元化

① 第9回研修医（初期、後期）のための血液学セミナーHP

② 第9回JSH国際シンポジウムHP

※第80回学術集会（JSH2018）HPも日本血液学会HPサーバーで作成予定。

### 賞 等

#### 1) 奨励賞（第78回日本血液学会学術集会発表）：副賞各30万円 ※所属は発表当時

河村 浩二（自治医科大学附属さいたま医療センター 血液科）

Impact of the presence of HLA 1-locus mismatch and the use of ATG in unrelated transplantation

小出 周平（千葉大学 医学部）

Setdb1 is required for the maintenance of hematopoietic stem and progenitor cells



塩澤 裕介 (京都大学大学院 医学系研究科腫瘍生物学講座)

The transcriptional and alternative splicing landscape of myelodysplastic syndromes

関 正史 (東京大学医学部附属病院 小児科)

Identifications of novel recurrent SPI1 fusions in highly aggressive phenotype of pediatric T-ALL

寺町 順平 (徳島大学 血液・内分泌代謝内科学)

TAK-1 is a pivotal therapeutic target for tumor progression and bone destruction in myeloma

西中 瑤子 (京都大学 iPS細胞研究所 臨床応用研究部門)

Compound screening for recovering the erythroid commitment of TAM-iPS cells

藤 重夫 (国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科)

Pretransplant anti-CCR antibody increased risks of severe GVHD and non-relapse mortality

安田 貴彦 (名古屋医療センター 臨床研究センター 生体情報解析室)

Novel fusion genes in acute lymphoblastic leukemia of adolescents and young adults

山岸 誠 (東京大学大学院 新領域創成科学研究科)

Epigenetic landscape in adult T cell leukemia-lymphoma (ATL); proof of concept for targeting EZH1/2

横田 明日美 (京都大学医学部附属病院 輸血細胞治療部)

The C/EBP  $\beta$  transcription factor mediates exhaustion of CML stem cells induced by IFN  $\alpha$

2) 白血病研究基金助成 (学会推薦)

河村 浩二 (自治医科大学附属さいたま医療センター 血液科)

横田 明日美 (京都大学医学部附属病院 輸血細胞治療部)

3) 外郭団体各賞

・平成 29 年度文部科学大臣表彰 科学技術賞 受賞

日本血液学会推薦 小川 誠司 氏 (京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学講座 教授)

・推薦募集

日本学術振興会賞、日本学術振興会育志賞、日本医師会医学研究奨励賞、藤原賞、慶應医学賞、持田記念学術賞、小島三郎記念文化賞、文部科学大臣表彰、イノベーター・オブ・ザ・イヤー

## 倫理

1) 日本血液学会倫理規定の作成および倫理審査の準備

2) 日本血液学会倫理委員会細則の見直し

・人を対象とする医学研究に関する倫理指針 (2017 年 5 月改訂) に則るものとする。

3) 個人情報保護法の改正に基づく倫理の取り扱いの注意点：会員への広報を準備

## COI

1) COI 自己申告の実施

・本学会主催の学術集会 (発表者全員)。

・本学会機関誌 (臨床血液、IJH) で発表を行う著者全員。

・本学会役員 (理事長、理事、監事)、学術集会会長・次期会長、国際シンポジウム会長、次期国際シンポジウム会長、各種委員会のすべての委員長/副委員長、特定の委員会委員など)。

・造血器腫瘍ガイドライン委員 (全員) : 造血器腫瘍診療ガイドライン第 2 版発刊に備えて。

※役員/ガイドライン委員の COI 自己申告書について、COI 委員長並びに副委員長による調査を実施。

2) COI 指針/細則の改訂について

・日本医学会 COI 管理ガイドラインの改訂 (2017 年 3 月)。

・内科系関連学会 医学系研究の COI に関する共通指針の改訂 (2017 年 4 月改訂)。

※内科系関連学会の共通指針改訂にともない、第 79 回学術集会終了後、本学会の指針/細則の改訂を行う。